

今週の月曜日、野球部が県予選4回戦で惜しくも敗退した。負けはしたけれど、とてもいい試合だった。スタンドではバトン部と吹奏楽部をはじめ、たくさんの生徒、卒業生、保護者、教職員が応援した。素晴らしい応援だった。グラウンドの中と外の誰もが一生懸命だったと思う。

1学期の間、色々な部活動の試合や発表に足を運び、みんなの一生懸命さを見ることができた。どんな大会でも、頂点に立たない限りは、常に負けて終わる。それは仕方のないことだけれど、そこに至るまでの一生懸命さは、言葉にできないほど尊いことだ。

だから、負けて流す涙は、必ずしも悔しいからだけではなく、悲しいからだけでもなく、それまでに自分が一生懸命に打ち込んできた努力への自負、そして同じように仲間たちが一生懸命に打ち込んできた努力への尊敬、この自負と尊敬から流す涙なのだと思う。

さて、明日から夏休みだ。夏休みには、普段では絶対に出来ないような時間の使い方ができる。これまでの人生で無かったくらい、これから先の人生でも無いくらいに、食べることも寝ることも忘れて、一生懸命に何かに打ち込むことができる。

3年生、今日までの成績だけで早々と進路を決めないで欲しい。今の時点での自分の学力に妥協しないで欲しい。半年後に向かって、さらなる高みを目指そう。そのために、この夏は頭と心を徹底的に鍛えよう。

2年生、来年の夏は勉強漬けにするのだから、この夏はやりたいことをやってみよう。勉強でも部活動でも文化祭準備でもアルバイトでも何でもいいから、自分でこれと決めたことを思う存分やってみよう。

1年生、中学3年だった去年の夏、高校に入ったらやろうと夢見ていたことは無いか。高校に入学して、いつの間にか置き去りにしていることは無いか。自分にはできそうもないと決めつけて、やろうとしていないことは無いか。今ならまだ十分間に合う。思い切って始めてみよう。

勉強や部活動や海外研修だけでなく、いろいろなボランティアに参加してみるのもいい。できれば、親を説得して費用を出して貰って、東北や九州の被災地に行って来るといい。ボランティアは難しくても、現地の様子を見てくるだけでも、感じることもあると思う。

とは言え、遠いしお金も掛かるので、一日だけのボランティアをやってみるのもいい。それも難しいなら、秋に開催される第3回さいたま国際マラソンの高校生ボランティアに申し込んでみるのもいい。今日が締切なので、やる気があれば担任に伝えて欲しい。

あるいは沢山の本を読んでみよう。今日配られる図書館便りで図書委員が薦めている本や、「宮西おすすすめ本のほん」に載っている本100冊以上、先生方や図書委員の生徒が薦

めてくれている本を、かたっぱしから読んでみるといい。そこには思いがけない発見や、一生を左右するかも知れない出会いが、きっとあると思う。

一生懸命に打ち込んでこそ、見えてくるものがある。それを見つけられるのが夏休みだ。たとえ見つけられなかったとしても、一生懸命に打ち込むことこそが大事だ。高校生だからこそできる今、一生懸命に打ち込むことで必ず身に付けることのできる力、集中力と持続力は、みんながこの先どんな進路を歩もうとも、必ず生涯を生きてゆく力になる。

始めの野球の話に戻るけれど、第99回全国高校野球選手権大会のキャッチフレーズは「じぶん史上、最高の夏」だ。9月1日、今よりも一回りも二回りも成長したみんなと再会できるのを、楽しみにしている。